

2021（令和3）年度 東京大学 入試問題 第4問（文系） 解答例

- 一 解釈学的探究では、記憶は、記憶する当人の視点からすれば、自身の人生を成立させているものであり、確かな実在性をもつから。
- 二 系譜学は、過去を問う現在の自己自体を自明視しないので、記憶として残されていない自己解釈の成立を探索するということ。
- * 「わかりやすく説明せよ」という付帯条件に注意。指示語と構文を無視した恣意的解釈はまったく不可であるが、指示対象と構文が客観的に正しくても、「現在の自己を自明の前提として過去を問う現在の自己そのものを疑うので、自明の前提としての現在の自己の成り立ちを問うということ。」などでは、「説明」不足で加点は少ない。
- 三 現在の自己解釈を成立させた過去が探索され、新たな自己解釈を成立させる記憶が、確かな実在性をもつに至るということ。
- 四 解釈学化の回避には、現在との関係で過去を概念化する観点を排し、過去の過去性を活かす考古学的視点を要するということ。